



スコット・キャロンの

ニッポン応援団



先日、アメリカの大学から夏休みで帰国している次女に相談を受け、いささか口論になってしまった。父としてすべきでなかったと反省しているが、その原因は大学卒業後にアメリカに住むか日本に住むかという話であった。

我が家には子供は4人おり、次女は末っ子に当たる。家族一同、日本が大変好きなので、子供たちは近所の保育園・幼稚園、小学校に通わせた。子供たちは日本語を話し、日本人の友達がたくさんでき、生粋の日本育ちとして楽しく充実した日々を過ごし、成長した。

我々は日本の皆さんに大変優しくしていただけてきた。人生の最大の恵みは、日本とのめぐりあいだと家族全員が思っているし、スポーツの日米戦では自然に「地元の日本」を応援するほどである。でも、次女は不安を抱いていた。アメリカ人なので、最終的に日本社会で本当に受け入れてもらえるかどうか理由であった。どうすれば良いのか思案に暮れた。

☆—☆—☆—☆

私が最初に日本で過ごしたのは、父親の転勤に伴った1～3歳の3年間であるが、自分の意志で再び来日し、仕事を始めたのは大学院卒業後の1990年代であった。その頃、私も「外国人」としての疎外感を感じる事が時々あった。しかし今や日本人のホスピタリティは、全世界で誰もが日本の象徴として想起する。出張で海外に出ると日本に早く戻りたいと思うし、帰国すると誰もが優しくどこでも安全な日本に安心する。

日本の魅力について、私が必ず最初に挙げるのは、日本人の「優しさ、謙虚さ、勤勉さ」である。今年で日本在住は28年目となる。昭和39年(1964年)生まれなので、社会人人生のほぼ全てが日本である。日本で学んだこと全てが糧であるが、

日本人に伝えたい 美点と課題

中でも私が最良と考える自らの行動指針はこの「日本人の3つの美点」である。

冒頭の話に戻るが、次女の不安をどう払拭するか。日本の人口減少と経済規模縮小を和らげるためにも、日本がいかにか開かれた国であるかを広く理解してもらうことは重要である。世界が日本から学ぶべきことは大変多く、逆もしかりである。日本と世界の更なる交流が互いに大きなメリットであることは自明である。

日本という国を世界に伝えるためには「英語でのコミュニケーション力の強化」がかなり重要である。もちろん近年の日本人の英語力の向上は目覚ましく、ネイティブスピーカー並みに話す方々も多い。急速に発展する自動翻訳ソフトの力も借りつつも、ぜひ世界水準の英語力を目指してほしいと切に願っている。

☆—☆—☆—☆

国を形作るのは国民である。日本の皆さんに正しい誇りを持っていただきたいし、日本の強さを自負してほしい。日本は戦後、世界第2位の経済大国まで発展した。また、単なる経済大国だけでなく、長い歴史を誇る文化大国でもある。その豊かな文化の背景には日本人の日本人らしい美点が生きているのである。

私はこれまで日本の皆さんに大変お世話になってきた。恩返しの意味も込めて、このコラムを、僭越(せんえつ)ながら私の目から見た「日本の良さ」と取り組むべき課題」を伝える機会とさせていただきます。日本の明るい未来のために我々ができることはたくさんある。成せばなんと信じている。GO JAPAN!

スコット・キャロン いちご会長、いちごアセットマネジメント社長。1994～2006年、日本開発銀行、外資系証券会社などに勤務。政治学博士。米国出身。06年、日本の永住権取得。